



安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 ANIT-FUNGAL TABLET
製品コード MXA29009

会社情報

会社名 株式会社ニコン
担当部署 ヘルスケア事業部
住所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町 471
横浜製作所
電話番号 045-853-8608
Fax 番号 045-853-8485
電子メールアドレス Msqa.Manager@nikon.com
緊急連絡電話番号 045-853-8608

推奨用途及び使用上の制限

光学系カビ防止、弊社製品専用

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口） 区分 4
急性毒性 区分 3
（吸入：粉じん／ミスト）
眼に対する重篤な損傷性又は 区分 1
眼刺激性
皮膚感作性 区分 1
特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 1（喉頭）

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性） 区分 1
水生環境有害性（長期間） 区分 1

GHS ラベル要素 絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
飲み込むと有害
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
重篤な眼の損傷
吸入すると有毒
長期にわたる、又は反復ばく露による喉頭の障害
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
口をすすぐこと。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。
医師に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。



施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

小さな子供やペットから遠ざけること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

飲み込むと有害

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

重篤な眼の損傷

吸入すると有毒

長期にわたる、又は反復ばく露による喉頭の障害

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
3-ヨード-2-プロピニルブチルカルバマート(IPBC)	55406-53-6	化審法 2-3456 安衛法 2-(5)-170	30
リン酸三カルシウム	1306-06-5	-	20
ステアリン酸マグネシウム	557-04-0	化審法 2-611 安衛法 9-327	2
D-ラクトース水合物 (有機)	64044-51-5	-	48

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

大量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再利用する場合は洗濯をすること。

症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること

被災者の意識がない場合は、口から何も与えてはならない。



予想される急性症状

飲み込むと有害
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
重篤な眼の損傷
吸入すると有毒

遅発性症状の最も重要な徴候症状

長期にわたる、又は反復ばく露による喉頭の障害

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

燃焼ガスには一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化合物等の有毒ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。



環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。

取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

粉じんを発生させないようにする。

すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。

眼、皮膚等に直接触れないように適切な保護具を着用する。

接触回避

10.安定性及び反応性を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

うがいをすること。

保管

技術的対策

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

混触禁止物質

酸化性物質

保管条件

高温、多湿を避け室温で保管する。

容器包装材料

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2017)	10 mg/m ³ （インハラブル粒子）（ステアリン酸マグネシウム）
	3 mg/m ³ （吸入性粒子）（ステアリン酸マグネシウム）
ACGIH TLV-STEL (2017)	設定されていない
日本産業衛生学会（2017）	2 mg/m ³ （第3種粉塵（その他の無機および有機粉塵）、吸入性粉塵）
	8 mg/m ³ （第3種粉塵（その他の無機および有機粉塵）、総粉塵）

設備対策

粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具	粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。
眼の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	固体
臭い	情報なし
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	情報なし
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重	情報なし
溶解度	情報なし



<i>n</i> -オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常のと扱条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	直射日光を避け、冷暗所に保管する。
混触危険物質	酸化性物質
危険有害な分解生成物	燃焼時に一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化合物等の有毒ガスを発生することがある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

情報なし

成分の有害性情報

3-ヨード-2-プロピニルブチルカルバマート (IPBC)

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ = 300~500 mg/kg
急性毒性（経皮）	ラット LD ₅₀ > 5,000 mg/kg
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	ラット 4時間 LD ₅₀ = 0.67 mg/L
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼に重大な損傷を引き起こす。
皮膚感作性	アレルギー性皮膚反応を起こすことがある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	長期または反復暴露による喉頭への損傷を引き起こす。

リン酸三カルシウム

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ ≥ 1,000 mg/kg (ただし Ca ₃ (PO ₄) ₂ の乾燥品として)
----------	--

ステアリン酸マグネシウム

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ > 10,000 mg/kg (ステアリン酸亜鉛) マウス LD ₅₀ > 10,000 mg/kg (ステアリン酸亜鉛)
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	高濃度の粉じんを長期又は繰り返し吸入した場合、進行性化学肺臓炎になる恐れがある。

D-ラクトースー水和物

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ > 10 g/kg
----------	--------------------------------

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

3-ヨード-2-プロピニルブチルカルバマート (IPBC)

水生環境急性有害性	魚類 (ニジマス) 96 時間 $LC_{50} = 0.067$ mg/L
水生環境慢性有害性	魚類 (ファッドヘッドミノー) 35 日間 NOEC = 0.0084 mg/L
残留性・分解性	IPBC は環境中で急速に PBC に変化する。
生体蓄積性	$\log P_{ow} = 2.8$
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ステアリン酸マグネシウム

水生環境急性有害性	情報なし
水生環境慢性有害性	情報なし
残留性・分解性	本品のデータはないが、ステアリン酸鉛の場合、生分解性が良好と判断される物質である。本品も生分解性は良好と判断される。
生体蓄積性	$\log P = 14$ $\log P \geq 7$ はほとんど水に溶解しないため、水生生物に対する蓄積性はない又は低いと考えられている。
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

D-ラクトースー水和物

水生環境急性有害性	情報なし
水生環境慢性有害性	情報なし
残留性・分解性	生分解性あり。
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない



13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	2811
品名	その他の毒物、固体、有機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	6.1
副次危険性	-
容器等級	III

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	2811
品名	その他の毒物、固体、有機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	6.1
副次危険性	-
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
IBCコード	非該当

航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	2811
品名	その他の毒物、固体、有機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	6.1
副次危険性	-
容器等級	III

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法に従う。
海洋汚染物質	該当
航空規制情報	航空法に従う。



緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

154

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（ステアリン酸マグネシウム）（1重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（ステアリン酸マグネシウム）（1重量%以上を含有する製剤その他の物） （運搬・貯蔵中に固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物であって、令別表第一に掲げる危険物、可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物並びに皮膚に対して腐食の危険を生じるものでないものを除く。）
航空法	その他の毒物（固体）（無機物）
船舶安全法	その他の毒物（固体）（無機物）
港則法	その他の毒物（固体）（無機物）

16 その他の情報

参考文献

NITE GHS 分類結果一覧 (2018)

日本産業衛生学会 (2017) 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2017) TLVs and BEIs.

【注意】 本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。